日本村落研究学会・研究会のお知らせ

趣旨：

以前は村研（宿題委員会）として秋の大会テーマに向けての予備の研究会を、年に一回東京で開催していました。大会テーマの方向を定め、課題を詰めることが目的でした。ただ、大会テーマ・セッションは会員有志による自主的な企画と設営が望ましいので、ここ数年の間は村研としてこの組織だった研究会開催を自粛してきました。今回、この大会に向けての研究会を研究委員会主催の形で再開いたします。というのは、今年の大会テーマ及びコーディネーターは理事会において決定･依頼したもので、会員有志の自主的な企画や設営によったわけではありません。そのため、大会テーマについて会員の関心が低く、課題の詰めも不足なままに大会本番を迎えてしまうことも懸念されます。そこで、大会テーマに呼応した形での予備研究会を開いて、会員の皆さんの関心を惹起し、課題の詰めの一助とすることにしました。

東京での今回の研究会のねらいは次の通りです。秋の大会が「有機農業運動」を、主として農村＆生産サイドから捉えるのに対して、東京・研究会では都市サイドから消費＆流通面中心に検討します。その中で女性や実務者の視点からみた、当運動の現状と問題点が提起されることになるでしょう。

共通テーマ　：　「都市から農を考える -- 転換期の有機農業運動　--」

開催日時：　１９９６年9月7日（土）

１３時３０分　～　１７時００分

会　　場：　慶應義塾大学三田キャンパス

研究室棟１Ｆ、Ｂ会議室

（交通：ＪＲ山の手線・京浜東北線田町駅下車 徒歩８分）

（ 同　 地下鉄都営浅草線・都営三田線三田駅下車 徒歩７分）

報告者と報告テーマ　：

座長　　本城　昇　　（埼玉大学）

報告１　金子美登　　（有機農業者）

「有機農業四半世紀の現場から」

報告２　永松美希　　（食品需給研究センター）

「有機農産物流通のゆくえ」

報告３　久保田裕子　（國學院大學）

「消費者運動と有機農業」

（ 問い合せ先：　農業総合研究所 相川良彦　Tel:03-3910-3946 ）